

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成28年度第11回）議事録

日 時：平成29年2月24日（金）9：30～10：50

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、松本洋一郎理事、間野博行理事、南砂理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：門田守人理事、児玉安司理事

I. 前回（平成28年度第10回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を南理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

- ・経営改善：財務ガバナンスの強化

資料に沿って説明し、了承された。

- ・現在は、予算が各部門とリンクしていないため、部門別に予算を作成し、その中で投資枠を定める。各部門とヒアリングを進め、3月の理事会で審議いただきたい。
- ・また、予算の執行プロセスを見直し、投資委員会（仮称）を設け、一定金額以上の支出や投資案件について審議・承認するプロセスを設定。3月からトライアルを開始したい。

主な意見等

- ・投資案件について、効果の評価が重要。
- ・財務会計上、部門別に資金管理することは当然必要。担当者に負担が掛かるが、提案された方針で手元資金を見ていく必要がある。今回はぎりぎりのタイミングと言えるのではないか。
- ・金額の大小、医療上の必要性・緊急性、待期期間など基準作りのコンセンサスが大切。各部門を超えた一体感の醸成がポイント。キャッシュ・フロー回復の重要性を幹部や各職員にぜひ理解いただきたい。
- ・各担当がこのテーマに向けて姿勢を変えていくことが必要。先を見て、全体を見て、外を見て、仕事をするのが大切。
- ・改革を進めつつ、業務上のリスクについても、管理職を中心に目を配ってほしい。
- ・資金管理の問題は経営の責任であり職員の責任ではないことに、留意すべき。

III. 報告事項

1. 希少がんMtE (Meet the Expert)

資料に沿って報告された。

2. 明細胞肉腫と胞巣状軟部肉腫の医師主導治験

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・肉腫のゲノム解析といった附随研究も、治験の一環として実施していく。
- ・希少がんの全国的な状況について、全国がん登録制度により、高い精度で把握できるようになる。

3. 全がん協加盟がん専門診療施設の生存率

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・5年相対生存率が徐々に改善している背景として、治療方法改善と早期発見があり、今回の結果は、どちらかといえば後者の影響が大きいのではないか。

4. 協和発酵キリン株式会社との包括的研究提携契約

資料に沿って報告された。

5. 英国 National Cancer Research Institute との MOU

資料に沿って報告された。

6. 日米韓 Cancer moonshot Technical Meeting

資料に沿って報告された。

7. がん患者さんのサポートと生活の工夫展

資料に沿って報告された。

8. がん対策推進協議会等

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・全国がん登録について、個人情報漏洩時に都道府県から報告を受けた場合の当センターの対応について、確認してほしい。

9. 広報実績

資料に沿って報告された。

10. 1月分月次決算

資料に沿って報告された。